

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

**「学びと支援の新たな結合による第三の教育」推進**

生徒の well-being を実現する学校  
大阪の地域社会を支え地域社会に参画する原動力となる市民を育成する。

## 2 中期的目標

「学びと支援の新たな結合」とは、社会的セーフティネットとしての位置づけも持っている本校が、「教育」と「福祉」の結合を新次元で実現するための標語である。向上性を重視する「教育的価値観」と安定性を重視する「福祉的価値観」は学校現場では、盛んに融合や結合を示唆されてきたにもかかわらず、未だその成功事例がないと言える。本校がめざす教育は高等学校教育の適格者主義を乗り越えたさき(=第三の教育)「生徒の Well-being を実現する学校」である。特に以下の3点を意識した学校文化をも育てる取り組みを実行する。

- ① Inclusion(インクルージョン)を実現する
- ② Competency(コンピテンシー)を育てる。
- ③ 社会参画を実現する Democracy(デモクラシー)を育てる。

令和6年度スタートの多様な教育実践校としては、他の学校のモデルとなるような取組だけにとどまらず、オンリーワンの学校として魅力あるカリキュラムの実現に努める。

(※以後成果指標としての目標数値については、4人に3人の割合程度の肯定・称賛・満足が当面の維持目標と考えている)

**1. 学習力をエンパワーする**

西成教育サポート6校連絡会を中心に近隣の義務制学校に指導と支援の方法を学び、学習保障を行う(@地域連携室)

- 授業力向上という視点から生徒の「学習力」向上の視点に切り替える。
- 多面的な評価方法の開発で生徒の学習意欲を伸ばす。
- 生徒の学習力を伸ばすため、ICTを活用した教育活動の「ハードル」を下げる

【評価指標】

- ①観点別学習状況評価における生徒の評価への納得度の維持向上(R3 90.4%、R4 87.2%)
- ②学校教育自己診断における「工夫された授業」「わかりやすい授業」への肯定感の維持向上  
工夫された授業への肯定感 (R2 84.1% , R3 89.7%, R4 89.1%) : R7目標→[75%以上維持]  
分かりやすい授業への肯定感 (R2 88.3% , R3 90.2% , R4 88.0%) : R7目標→[75%以上維持]
- ③生徒授業アンケートでの授業に対する肯定感(全体平均値の向上)(R2 3.49 , R3 3.48 , R4 3.45)

**2. キャリア教育でエンパワーする**

地域協働キャリアセンターを中心に校内外の連携による生徒の職業観・勤労観の自覚を育てる

- 挫折や失敗からリカバーするチカラを育成する。
- アルバイト支援(経営推進費)を継続し、2年次のインターンシップを通して、段階的・実践的な職業教育を実施する。
- 社会人基礎力の養成を行う。(1年次からの人間関係作りなどを含めた)
- 定着支援にも重点をおく。

【評価指標】

- ①学校教育自己診断アンケート(生徒)における「成長実感」  
(R2 78.4% , R3 83.0% , R4 79.6%) R7目標 75%維持
- ②進路指導に対する自己診断アンケートでの満足度 (R2 86% , R3 88.6% , R4 85.6%) R7目標 75%以上維持
- ③地元への就職定着を促進しながら、就職内定100%を維持する。(令和3年度現在11年連続100%達成)
- ④就労1年以内の離職率をR6には10%以内にする。R1年度卒業生離職率16% R2年度卒業生18.6% R3年度卒業生24%  
※離職率は2年前の卒業生の状況を反映する)
- ⑤キャリア教育の原点は「学びなおし」と自信の回復 進級率卒業率を向上させる。R6 卒業生数200名(213名入学)卒業率94%をめざす。(令和3年度卒業学年の3か年 2年への進級率86.2%、卒業率79.7%  
令和4年度卒業生 2年への進級率93.9% 卒業率 現在で72.4%判定会議前)。
- ⑥R4 生徒を勇気づけるキャリアステージ計画(地域協働キャリアセンター構想)(R4 現在1年からの進級率85%を90%に、卒業率76%を80%に 1年後の離職率16%に R6 1年からの進級率94%、卒業率90%に、1年後の離職率10%に)

**3. シチズンシップ教育でエンパワーする**

○部落差別や野宿問題に起因する(西成差別)排除・子どもの貧困に象徴される貧困状態による差別・多様性(多文化・LGBTなど)

による社会的な排除さらに障がいのある生徒への排除など社会的課題につながる当事者が多数在籍している。そうした教室にいる仲間の理解を通して世界を把握することができるよう取組みを進める。【多様性が強みとなる学校運営】

○18歳選挙権(政治的教養を高める教育)を通じて、市民としての権利と責任を身に付ける。

【評価指標】

- ① 学校教育自己診断における人権教育等への肯定感  
(R2 89.4% , R3 93.2% , R4 91.8%) R6目標→[90%以上維持]
- ②学校行事など生徒会活動への肯定感  
(R2 78.6% , R3 87.9% , R4 84.2%) R6目標→[90%以上維持]

<p><b>4. 「地域まるごと」エンパワーする</b></p> <p>地域連携室を新校体制に先駆けて整備し、にしなり教育サポート6校連絡会や地域協働キャリアセンターをも包摂し地域連携の要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「産業社会と人間」「エンパワーTIME」「総合的な探究の時間＝チャレンジ」の取組みをエンパワメント学習発表会で報告する。</li> <li>○ 地域協働キャリアセンターを令和4年度に発足させたので、さらに結合を広め、インターンシップなど生徒の校外での活動を積極的に支援する。</li> <li>○ 「地域まるごと」エンパワーをめざし、令和6年度スタートのオンリーワンの学び「にしなり学」指定科目群を設定する。</li> </ul> <p>【評価について】</p> <p>※「地域連携についてのアンケート」項目を作成 75%以上の肯定感</p>
<p><b>5. 運営改善で教員力もエンパワーする</b></p> <p>分掌体制の改編をさらに実施し、教育課題に正面から向き合う。同時に働き方にも配慮した西成高校スタイルを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「働き方改革」の一環として9時35分授業開始45分授業を実現し、生徒のために働きやすい環境を作り出す。</li> <li>○ 「教職員連続学習講座」を引き続き実施し、幅広い教育者としてのスキル・見通し・マインド(センスと教養)を涵養する。</li> </ul> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校教育自己診断(教職員用)による評価 学校は生徒保護者の願いにこたえている。R4 85.7%</li> <li>②教職員間で必要な調整打合わせが円滑におこなわれている R2 63.2%, R3 61.5%, R4 67.3% R06 目標→75%</li> </ul>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年1月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
	<b>1. 学習力をエンパワーする</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 習熟度クラス展開による学習の質の改善</li> <li>② 学習習慣の定着をめざす</li> <li>③ 生徒の学力をキーとなるコンピテンシーを軸にとらえなおし、多面的な評価をおこなうよう研究する(そのことにより、授業を柔らかくするファシリテーションの実践的研究とする)</li> <li>④ 到達度に対する評価ではなく、徹底した加点法による評価によるゴールフリー評価を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校教育自己診断「わかりやすい授業」の肯定感の維持[88%]</li> <li>② 学校教育自己診断「質問しやすい」の肯定感の維持 [83.4%]</li> <li>③ 学校教育自己診断「評価納得感」の肯定感維持[87.2%]</li> <li>④ 学校教育自己診断「評価の仕方や基準のあらかじめの明示」肯定感の維持[89.9%]</li> </ul>	
	○生徒を主語にする学びの創造			
	<b>2. キャリア教育でエンパワーする</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の課題を解決する「地域課題研究」(学校設定科目)をエンパワメントタイムの授業として実践を開始し、本校学校文化を代表するコアカリキュラムに育てる。</li> <li>② インターンシップの充実</li> <li>③ キャリアパスポートの効率的活用を通じてキャリア意識を高める。</li> <li>④ 生徒を勇気づけるキャリアステージ計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①② 新たに生徒による評価を実施する。肯定感 75%をめざす</li> <li>※③については目標数値を設定せず、生徒の感想による評価を行う。</li> <li>④校内キャリアアップ 2年への進級[90%] 目標値 90% 卒業率[79.7%] 目標値 80%、1年後の離職率[24%]目標値 16%</li> </ul>	
	○キャリア学習における成長実感の向上			
	<b>3. シチズンシップ教育でエンパワーする</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 仲間作りを促進し、相互の理解を増すことで相互の信頼関係を高める。また教員とも信頼できる「環境」を作る</li> <li>② カフェ事業を引き続き拡充し、生徒支援を重層的に実施する</li> <li>③ 人権・福祉についてなど社会について多面的に学び、市民としての権利と責任を身につける。(特にジェンダー、ハラスメントなどの問題も取組む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校教育自己診断における「悩み事や相談事に関する質問項目」についての肯定感を維持。[85.1%]</li> <li>②「居場所について学校は気にかけてくれている」の肯定感を維持。[85.9%]</li> <li>③ 「人権・福祉の学習」への自己診断アンケートへの肯定感の維持。[91.8%]</li> </ul>	
	○子ども権利条約の内容に基づく教育の実践			
	<b>4. 「地域まるごと」エンパワーする</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域協働キャリアセンターや地域連携室と学びの連携</li> <li>② エンパワメント学習発表会の実施</li> <li>③ 地元区役所(西成区・住之江区など)との地域協働の連携を通じて、在校生・卒業生の活躍の場所を探る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①エンパワ演習で労働問題や地域福祉の入門を学ぶ。(1年生の産業社会と人間が進路に役立つなどの肯定感)75%以上 [89.6%]</li> <li>※②数値による評価指標を設けず、アンケートによるフィードバック。(肯定的な感想など)</li> <li>※③数値による評価仕様を設けず、エピソードやストーリーによる評価を明示する。</li> </ul>	
	○ 地域連携室の設置及び稼働			

<b>5. 運営改善で教員力もエンパワーする</b>	<p>① 各種会議の目的・位置づけを引き続き明確にするなど運営方法の研究や意思相通の方法を開発し、効率的な仕事文化を育む→働き方のグレードアップ。</p> <p>② ICT を活用した連絡調整方法の習熟</p> <p>③ 始業後1時間にすべての会議を集約することで、授業後の時間を生徒への指導支援(部活動等)に集中できる。 また子育て世代の職員の働き方改革にも資する。</p>	<p>① 円滑な情報共有と課題検討が行われている [91.8%の維持]</p> <p>②③各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。 [91.8%の維持]</p>	
<p>○機動的・機能的な学校組織の確立</p> <p>○働き方改革を実現するための職員室デザイン</p>			